

第 3 3 7 回
日 本 泌 尿 器 科 学 会 新 潟 地 方 会
《 プ ロ グ ラ ム 》

日 時：平成 1 8 年 3 月 1 1 日 (土) 午後 2 時 3 0 分
会 場：イタリア軒 3 階 『サンマルコ』
新潟市西堀通 7 025-224-5111

次回 第 3 3 8 回新潟地方会予告
期日：平成 1 8 年 6 月 2 4 日 (土)
会場：松本市
演題申込期限：平成 1 8 年 5 月上旬

- ※ PC 発表のみです。
- ※ 口演時間は、1 題 7 分。討論 3 分

951-8510 新潟市旭町通 1 の 7 5 7
新潟大学医学部泌尿器科学教室内
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL : 025 (227) 2289 / FAX : 025 (227) 0784
会長 高 橋 公 太

14:30～15:30

座長 今井智之

1. 後腹膜腔に発生した Solitary Fibrous Tumor の 1 例

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

新井 啓、利根川悦子、車田茂徳、渡辺竜助、

谷川俊貴、西山 勉、高橋公太

症例は 74 歳、男性。尿閉を契機に受診。CT にて膀胱背側、直腸前面に巨大な腫瘤を認めた。経腹的腫瘍摘出術を施行し、病理所見は孤立性線維腫 Solitary Fibrous Tumor(SFT)であった。従来限局性胸膜中皮腫といわれていた本疾患は、胸膜以外にも後腹膜組織や間葉系組織からも発生しており、SFT という概念が一般的になりつつある。臨床病理学的特徴、類似病変との鑑別診断について考察した。

2. 二分陰嚢を合併した近位型尿道下裂に対する modified Yoke 法による一期的尿道下裂形成術の経験

新潟市民病院泌尿器科 筒井寿基、川上芳明、大澤哲雄

症例は 2 才 6 ヶ月、二分陰嚢を有する陰茎陰嚢型尿道下裂の男児。索切除後、paramental foreskin flap を陰茎腹側に固定し、尿道板を新尿道全長にわたり再建した上で、Thiersch-Duplay 法に準じて一期的尿道形成と陰嚢形成を行った。術後 3 ヶ月の時点で、明らかな合併症は認められない。尿道板の再建を意図した本法は flap が陰茎に固定されているため、均一な太さの新尿道形成が可能である。

3. ガンセンター新潟病院の 2005 年度

ガンセンター新潟病院 泌尿器科

小松原秀一、北村康夫、斎藤俊弘、原 昇

当院における患者数は右肩上がりであり、特にハイリスク症例が増加している。当科における 2005 年度の手術統計、抗癌剤化学療法の実績、また前立腺癌を中心に放射線治療の統計を集計した。これに若干の考察を加え供覧する。

4. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における平成 17 年手術統計

新潟大学腎泌尿器病態学分野

車田茂徳、新井 啓、村山慎一郎、高橋公太

平成 17 年度の新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における手術総数は 468 件であった。昨年は麻疹による病棟閉鎖の影響で前年度実績を割り込む数字となったが、今年はここ数年の動向通りに手術件数の増加を見た。手術内訳としては前立腺生検及び経尿道的膀胱腫瘍切除術などが上位を占めた。減少傾向だった前立腺生検の施行件数はほぼ前年と同数であった。腎癌に対する腹腔鏡手術が増加し、腹腔鏡手術件数の増加を見た。腹腔鏡手術については保険点数の改訂なども予想され、今後この傾向が更に強くなると考えられる。

5. 新潟市民病院における平成 17 年の手術統計

新潟市民病院泌尿器科 川上芳明、筒井寿基、大澤哲雄

延べ手術患者数 547 名。延べ手術件数 579 件。腎 (38 件): 根治的腎摘術 7 腎尿管全摘術 5 PNL2。尿管 (23 件): TUL3 尿管鏡 3 尿管切石術 3。膀胱 (119 件): TUR-Bt74 膀胱碎石術 19 膀胱全摘術 5。尿道 (16 件): 内尿道切開術 5 尿道形成術 3。前立腺 (221 件): 前立腺生検 118 TUR-P33。陰嚢内容 (32 件): 精巣固定術 12 陰嚢水腫根治術 9。陰茎 (8 件): 環状切開術 4 コンジローマ切除術 2。副腎その他 (9 件): 副腎摘除術 2。ESWL (111 件)

6. 当科における 15 年間の手術統計

刈羽郡総合病院泌尿器科 羽入修吾、信下智広

1991 年泌尿器科常勤化から手術件数は漸増し、15 年間に延 3026 例、延 3571 件の手術が施行された。臓器別では前立腺が 1303 件、36%で最多だった。2001 年から前立腺針生検が増え、2004 年から ESWL が行われ、最近 2 年は年間 400 件にせまり、TURP・前立腺針生検・ESWL で約半数を占める。15 年間の頻度の多い手術は TURP 937、TURBT 293、前立腺針生検 282、環状切開術 247、TUL122、PNS116、ESWL114 等であった。

15 : 30 ~ 16 : 30

座長 若 月 俊 二

7．当科で経験した精索軸捻転症 20 例の臨床的検討

刈羽郡総合病院泌尿器科 信下智広、羽入修吾

1991年から15年間に当科で手術を行った精索軸捻転症20例について検討した。年齢は4～29歳、平均17±5歳。6時間以内に整復できた症例は10例（50％）。患側精巣は全例にBell Clapper Deformityを認めた。75％の症例で反対側にもBell Clapper Deformityを認めた。19例で整復固定手術を行い、1例で摘除術を施行。10例で半年以上の長期経過を確認。整復まで8時間以内の症例は精巣が萎縮せず、10時間以上の症例は萎縮した。

8．当院における腎癌の臨床的検討

長岡赤十字病院 泌尿器科 瀧澤逸大 石井達矢 米山健志 森下英夫

超音波診断法や CT スキャンによる画像診断法の進歩により無症状のうちに発見される偶発癌が増加している。腎癌もその代表的なものであり、検診や人間ドックで発見され紹介される症例が多い。今回、1996 年から 2005 年までの 10 年間に当院で治療された腎癌の症例について臨床的検討を行った。

9．尿路上皮癌に対する，gemcitabine を含む化学療法の使用経験

竹田総合病院 泌尿器科¹，会津クリニック²

笠原 隆¹，若月 秀光¹，阿部 真樹¹，玉木 信²

局所浸潤性または転移性尿路上皮癌に対し，gemcitabine (GEM)を含む化学療法を 10 例に施行した。7 例には，MVAC などの抗癌剤治療歴があった。レジメンは，GEM + paclitaxel（または docetaxel (DTX)）：7 例，GEM + ifosfamide + cisplatin (CDDP)：2 例，GEM + DTX + CDDP：1 例であった。CR：3 例，PR：2 例であり，化学療法歴のある症例にも効果が認められた。

10．新潟県中越大震災における間欠的自己導尿者の排尿管理の状況について

県立十日町病院泌尿器科¹、新潟大学腎泌尿器病態学分野²

星井達彦¹、西山 勉²、高橋公太²

今回、中越大震災後の自己導尿者の排尿管理の状況につき、同地区の病院に通院する患者へのアンケート調査を行い、検討した。アンケートの回収率は 91.5%であり、平均年齢は 64.6 歳であった。地震直後から 1 週間、水分 39.0%、導尿場所 23.2%、器具 6.1%の各不足が挙げられた。同時期の泌尿器感染症症状は 3.8%あり、有症状者全てに水分摂取の不足が認められた。災害時での自己導尿者に対し、導尿場所や水分の十分な確保が必要と考えられた。

11. Siemens Lithostar Multiline を用いた ESWL652 例の治療成績

新潟こばり病院 木村元彦、笹川 亨

当院の ESWL 機は 2003 年 10 月に Siemens Lithostar Multiline に更新され、652 結石(587 名、計 1161 回)の治療を行った。効果判定可能な 561 結石の 3 ヶ月後の完全排石率は 77%、有効率は 80%であった。11-20mm の U1, U2, U3 結石の完全排石率はそれぞれ 66%, 79%, 86%であり、U2, U3 での ESWL の有用性が確認された。また 21mm 超の腎結石 13 例のうち、1-11 回の ESWL で 6 例に完全排石を得た。

12. 新潟こばり病院における尿路結石治療の現況

新潟こばり病院 笹川 亨、木村元彦

新潟こばり病院における尿路結石手術治療の現況を報告する。ESWL は年間 500 から 600 件、新患登録数は 200 から 250 名であった。PNL、TUL は増加傾向にあり、平成 17 年は PNL25 件、TUL は 60 件に施行された。膀胱結石に対する経尿道的碎石術は ESWL を行わなくなってきた事により増加傾向にある。開放手術は 15 年間で 8 件のみであった。

16 : 30 ~ 16 : 45

【教育セミナー】

座長 谷 川 俊 貴

腎細胞癌 Bench to Bed —免疫療法で効果を示す腫瘍に特徴はあるのか？

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野 丸山 亮

進行性腎細胞癌に対する免疫療法の効果はせいぜい 20%程度であり、副作用、経済性の面からも、効果を示す患者の選択が望まれる。臨床的な特徴による患者選択は行われているものの、腫瘍自体の特徴、特に分子生物学的マーカーのようなものは見つかってない。われわれはこのマーカーになりうるものを探すこととし、アポトーシス関連蛋白に着目した。

16:45～17:00

日本泌尿器科学会新潟地方会総会

[休憩 17:00～17:20]

お知らせ

日本泌尿器科学会専門医・指導医に必要な新潟地方会参加証は、地方会当日受付に用意しておりますので、必要な先生は受付に申し出て下さい。

サテライトセミナー

日時：平成18年3月11日(土)

17時20分～18時30分

会場：イタリア軒 3階『サンマルコ』

17時20分～17時30分

〈製品紹介〉

選択的 α_{1A} 遮断薬・前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ」

第一製薬株式会社 東京第二支店 学術課 飯高 弘俊

17時30分～18時30分

〈特別講演〉

座 長 新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野 教授 高橋 公太先生

「表在性膀胱癌の治療戦略 -疾患の自然史に基づいた考察-」

浜松医科大学 泌尿器学講座 教授 大園 誠一郎 先生

共催 日本泌尿器科学会新潟地方会

第一製薬株式会社

※ サテライトセミナー終了後、懇親会を行います。